

## 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

製造者情報 会社 **ホーザン株式会社**  
住所 大阪市浪速区幸町1-2-12  
担当部門 マーケティンググループ  
お問い合わせ窓口 ホーザンテクニカルホットライン  
電話番号 06(6567)3132  
製品番号 Z-293-P  
製品名 フラックスリムーバー

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性 : 引火性液体 : 区分3  
健康有害性 : 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4  
皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3  
誤えん有害性 : 区分1

注)「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する危険有害性項目は記載していない。

## GHSラベル要素

絵表示 :



注意喚起語 : 危険  
危険有害性 : 引火性液体及び蒸気  
吸入すると有害  
皮膚刺激  
眼刺激  
眠気又はめまいのおそれ  
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

## 注意書き

## 安全対策

- : すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 熱、高温のもの、火花、裸火、及び他の着火源から遠ざけること。
- 禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 容器を接地しアースをとること。
- 防爆型の機器(電気/換気/照明等)を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 取扱い後は触れた可能性のある体の部位をよく洗うこと。

## 応急措置

- : 皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
皮膚を水で洗うこと。
- 火災の場合 : 消火するために泡、ドライパウダー、炭酸ガスを使用すること。
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水で洗うこと。
- 特別な処置が必要である。
- 皮膚刺激が生じた場合 : 医師の診察/手当てを受けること。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。  
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合 : 医師の診察/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。  
無理に吐かせないこと。

## 保管

- : 換気の良い場所で保管すること。
- 涼しいところに置くこと。
- 容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。

## 廃棄

- : 内容及び容器を地域の規則に従って廃棄すること。
-

---

### 3. 組成及び成分情報

化学物質／混合物	：	混合物	
化学物質の名称	：	石油系溶剤	
成分及び含有率	：	プロピレングリコールモノメチルエーテル	80%以上
		石油系溶剤	20%未満
官報公示整理番号	：	プロピレングリコールモノメチルエーテル	(2)-404
		石油系溶剤	登録あり
CASNo.	：	プロピレングリコールモノメチルエーテル	107-98-2
		石油系溶剤	登録あり

---

### 4. 応急措置

吸入した場合	：	新鮮な空気の場所へ移し、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐ。 皮膚を多量の流水又はシャワーで洗う。 医師の診察／手当てを受ける。
眼に入った場合	：	水で数分間注意深く洗う。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 医師の診察／手当てを受ける。
飲み込んだ場合	：	多量の水を飲ませる。 自然に嘔吐出来る場合には自発的に吐き出す。 患者に意識がない場合や、けいれんを起こしている場合には、決して水等の物を与えてはいけない。 医師の手当てを受ける。

---

### 5. 火災時の措置

消火剤	：	小規模な場合：炭酸ガス、泡、ドライパウダー 大規模な場合：散水、噴霧水、一般の泡消火剤 ※棒状の水は使用してはならない。
特有の消火方法	：	引火点が極めて低いので、消火の効果がないおそれがある場合は散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	：	消火作業の際には有害なガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から作業する。

---

## 6. 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ： 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
- 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
- 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
- 風上に留まる。
- 低地から離れる。
- 密閉された場所に入る前に換気する。

- 環境に対する注意事項
- ： 環境中に放出してはならない。
  - 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

## 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- ： 危険でなければ漏れを止める。
- 漏出物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策
- ： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 注意事項
- ： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項
- ： すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
  - 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
  - 容器を転倒、又は落下させ、衝撃を加えたり、引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
  - 眼に入れない。
  - ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避ける。
  - 皮膚との接触を避ける。
  - 取り扱い後はよく手を洗う。
  - 屋外又は換気の良い区域でのみ使用する。

## 保管

- 適切な保管方法
- ： 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作る。
  - 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ、天井を設けない。
  - 保管場所の床は、床面に水が浸入しない構造とする。
  - 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
  - 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
  - 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。(禁煙)
  - 酸化剤から離して保管する。
  - 容器は直射日光や火気を避ける。
  - 容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。

安全な容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	<p>: 防爆の電気・換気・照明機器を使用する。          静電気放電に対する予防措置を講ずる。          この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。          空気中の濃度をばく露限度以下に保つために、排気用の換気を行う。          高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。          気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。</p>		
許容濃度	プロピレングリコールモノメチルエーテル	TLV-TWA TLV-STEL	50ppm 100ppm
保護具	<p>呼吸器の保護具 : 有機ガス用吸収缶の防毒マスク          手の保護具 : ゴム手袋          眼の保護具 : 安全眼鏡(ゴーグル型)又は顔面全体の保護具          皮膚及び身体の保護具 : 作業服、安全靴</p>		

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: 特徴臭
融点	: $\leq -50^{\circ}\text{C}$
沸点	: $\geq 120^{\circ}\text{C}$
爆発下限界及び上限界/可燃限界	: 下限 : 0.7vol%      上限 : 13.7vol%
引火点	: $\geq 32^{\circ}\text{C}$ (セタ密閉式)
自然発火点	: $\geq 270^{\circ}\text{C}$
動粘性率	: $\leq 1.81\text{mm}^2/\text{s}$
溶解度	: 水に部分的に混和する
蒸気圧	: $\geq 0.1\text{kPa}$
密度	: 0.90(20°C)
その他	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 「危険有害反応可能性」を参照。
化学的安定性	: 常温・常圧で安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、強還元剤と反応する可能性がある。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触、静電気
混触危険物質	: 酸化剤、還元剤、強酸、強アルカリ
危険有害な分解生成物	: 熱分解や燃焼により、一酸化炭素等の有毒なガスを生じるおそれがある。

## 11. 有害性情報

- 急性毒性(経口) : ラット LD<sub>50</sub>>5000mg/kg : 区分に該当しない
- 急性毒性(経皮) : ラビットLD<sub>50</sub>>5000mg/kg : 区分に該当しない
- 急性毒性(吸入) : プロピレングリコールモノメチルエーテル  
蒸気 : マウス LC<sub>50</sub> 7365~9258ppmV : 区分4に該当
- 皮膚腐食性/皮膚刺激性: プロピレングリコールモノメチルエーテル  
ラビット : 極めて軽度の刺激: 区分に該当しない
- 石油系溶剤  
刺激性あり : 区分2に該当
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
: プロピレングリコールモノメチルエーテル  
ラビット : 軽度の刺激あり : 区分2Bに該当
- 石油系溶剤  
刺激性なし : 区分に該当しない
- 生殖細胞変異原性 : プロピレングリコールモノメチルエーテル  
In vivo 陰性、In vitro 陰性 : 区分に該当しない
- 石油系溶剤  
In vitro 陰性 : 区分に該当しない
- 生殖毒性 : プロピレングリコールモノメチルエーテル  
マウス、ラット及びラビットによる経口及び吸入の試験で悪影響は見られなかった。  
: 区分に該当しない
- 石油系溶剤  
ラット吸入 NOAEC 20mg/L (chronic)  
ラット吸入 NOAEL 23.9mg/L (subchronic)  
ラット経皮 NOAEL 500mg/kg/day (subchronic)  
: データ不十分につき分類できない
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露)  
: プロピレングリコールモノメチルエーテル  
ラット経口及びラビット経皮の試験で麻酔作用が確認された。  
: 区分3(麻酔作用)に該当
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露)  
: プロピレングリコールモノメチルエーテル  
ラット、マウス及びラビット吸入 NOEL又はNOAEL >1mg/L  
ラット経口 NOEL 919mg/kg/day  
ラビット経皮 NOEL 1840mg/kg/day : いずれも区分に該当しない
- 石油系溶剤  
ラット吸入 NOAEC 1.402mg/L : 区分に該当しない
- 誤えん有害性 : プロピレングリコールモノメチルエーテル及び石油系溶剤  
いずれも40℃の動粘性率が ≤20.5mm<sup>2</sup>/s : 区分1に該当
- その他 : データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性	： プロピレングリコールモノメチルエーテル	
	魚類 LC <sub>50</sub> (96h) >1000mg/L、甲殻類 EC <sub>50</sub> (48h) >500mg/L	
	藻類 EC <sub>50</sub> (96h) >1000mg/L	
	石油系溶剤	
	魚類 LL <sub>0</sub> (96h) 1000mg/L、甲殻類 EL <sub>0</sub> (48h) 1000mg/L	
	藻類 EL <sub>0</sub> (72h) 1000mg/L、NOELR(72h) 1000mg/L	
残留性・分解性	： プロピレングリコールモノメチルエーテル	： データなし
	石油系溶剤	： 容易に生分解する
その他	： データなし	
水生環境有害性短期(急性)	： 96時間 LC <sub>50</sub> (魚類)、48時間EC <sub>50</sub> (甲殻類)、96時間 EC <sub>50</sub> (藻類) >100mg/L	
	： 区分に該当しない	
水生環境有害性長期(慢性)	： プロピレングリコールモノメチルエーテルは急性毒性が低くかつ水に混和する。	
	石油系溶剤は急性毒性が低く、生分解性がある。	： 区分に該当しない
オゾン層への有害性	： モントリオール議定書のリストにない	： 区分に該当しない

## 13. 廃棄上の注意

地域の規則に準じた焼却又は、産業処理を行う。  
 製品の付着した空容器についても、製品と同様に処分を行う。  
 「7. 取扱い及び保管上の注意」項の記載にも注意する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号	： 1993
品名(国連輸送名)	： その他引火性液体
国連分類	： クラス3
容器等級	： UN容器等級 III
輸送の特定の安全対策及び条件	： 容器が破損しないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。 「7. 取扱い及び保管上の注意」項の記載にも注意する。
国内規則	： 消防法危険物 第四類 第二石油類 非水溶性液体

## 15. 適用法令

化審法	： 第1種特定化学物質、第2種特定化学物質、監視化学物質及び優先評価化学物質に該当しない。
労働安全衛生法	： プロピレングリコールモノメチルエーテル 危険物・引火性のもの 名称等を表示及び通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の1別表第9) 政令番号：496
消防法	： 危険物 第四類 第二石油類 非水溶性液体
毒物及び劇物取締法	： 該当しない
化学物質排出把握管理促進法	： 該当しない

輸出貿易管理令 : キャッチオール規制に該当

製品中の含有量や使用・保管する総数などの諸条件、また法令の改正により、必ずしも適用されるものではありません。  
詳しくは各法令をご確認ください。

---

#### 16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、製品の適応性・安全性を保証するものではありません。取扱いには十分注意してください。

このデータの使用による損失や損害について一切責任を負いません。ご使用者の責任において安全対策を実施の上、取扱い願います。

---